

食の安全・安心に関するアンケート調査報告

平成22年1月

愛知県県民生活部県民生活課

目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果	2
1	食の安全・安心に対する関心度について	2
2	食の安全・安心に対する意識について	3
3	食の安全・安心に関する事件等について	6
4	食品の購入時・購入後の行動について	8
5	食の安全性の確保に向けた今後の方向性について	10
6	食の安全・安心に関する意見等（自由意見）	14

食の安全・安心に関するアンケート調査報告

愛知県県民生活部県民生活課

I 調査の概要

1 調査の目的

近年、輸入冷凍食品による薬物中毒、事故米穀の不正規流通、うなぎやたけのこを始めとする各種食品の産地偽装等、食の安全を揺るがす事件が相次いでいます。

このため、本アンケート調査を実施することにより、食の安全・安心に関する消費者の意識及び意見・要望を把握し、今後の県行政の取組への反映を図るとともに、調査結果の公表等を通じて、食品関係事業者等の意識啓発を図ります。

2 調査の実施期間

平成21年10月30日から平成21年11月10日まで（郵送による）

3 調査対象者

愛知県消費生活モニター 400名（回答者数 384名 回収率 96.0%）

4 標本属性

- | | |
|---------|--|
| (1) 性別 | 女性 300名 (78.1%)、男性 84名 (21.9%) |
| (2) 年代別 | 20歳代 31名 (8.1%)、30歳代 89名 (23.2%)
40歳代 100名 (26.0%)、50歳代 50名 (13.0%)
60歳以上 114名 (29.7%) |
| (3) 地域別 | 名古屋市内 87名 (22.7%)、尾張地域 176名 (45.8%)
西三河地域 79名 (20.6%)、東三河地域 42名 (10.9%) |
| (4) 職業別 | 専業主婦 175名 (45.6%)、パート・アルバイト 83名 (21.6%)
常勤 61名 (15.9%)、無職・その他 51名 (13.3%)
自営業 14名 (3.6%) |

(注) 調査結果の数値（率）は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

愛知県消費生活モニターは、危険な商品、不当な取引や表示、生活必需品の需給・価格動向などを監視するとともに、消費生活に関する意見・要望の提出等を職務としており、公募（329名）と市町村推薦（71名）により、各市町村の世帯数や年齢バランスなどを考慮して選考、配置しています。

このため、標本の属性としては、性別では約8割が女性、職業別では約5割が専業主婦といった特性を有していますので、調査結果についてはこれらの特性に注意する必要があります。

Ⅱ 調査結果

1 食の安全・安心に対する関心度

問1 食の安全の分野への関心について

日常生活を取り巻く安全の分野には、自然災害、犯罪、交通安全、環境問題など様々なものがありますが、これらの分野と比較して食の安全の分野に対して、あなたはどの程度関心を持っていますか。（1つ選択）

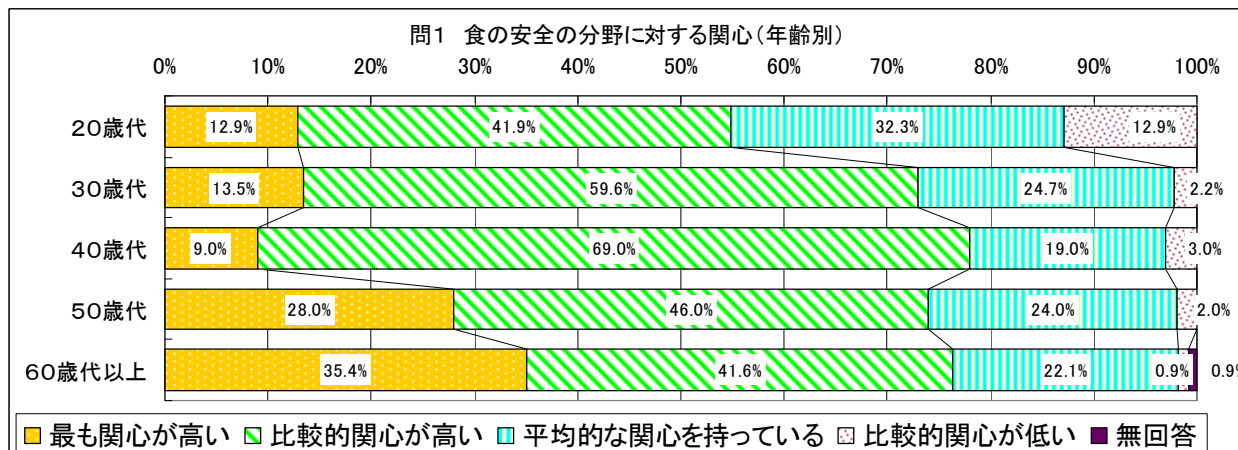
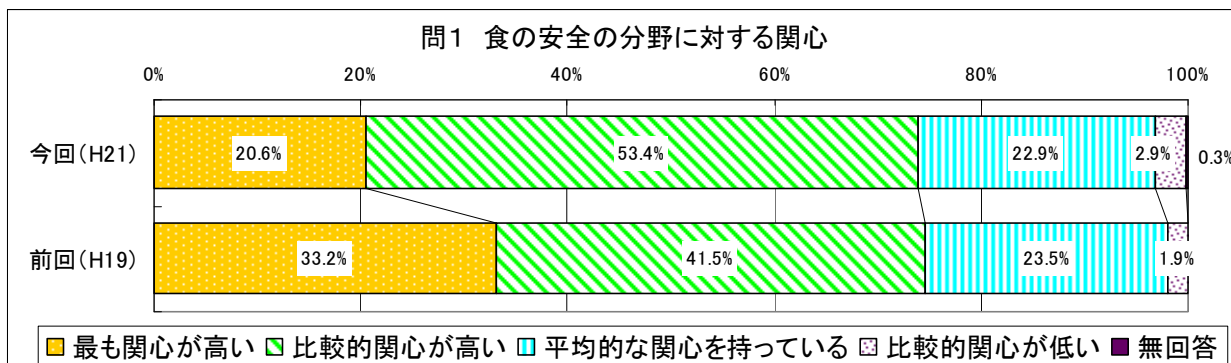
結果の概要

74%の人が食の安全の分野に高い関心を持っている

自然災害、犯罪、交通安全、環境問題などの分野と比較して、食の安全の分野が「最も関心が高い」と回答した人は20.6%、「比較的関心が高い」と回答した人は53.4%となっており、全体の74%の人が、食の安全の分野に高い関心を持っています。

また、平成19年8月に実施した前回の調査と比較すると「最も関心が高い」と回答した人は12.6ポイント減少していることから、食の安全の分野に対する関心の度合はやや低くなっています。

年齢別に見ると、「最も関心が高い」あるいは「比較的関心が高い」と回答した人の割合の合計は30歳代以上ではいずれも7割台でしたが、20歳代では54.8%と他の年代と比較して低くなっています。



2 食の安全・安心に対する意識

問2 食に対する不安感について

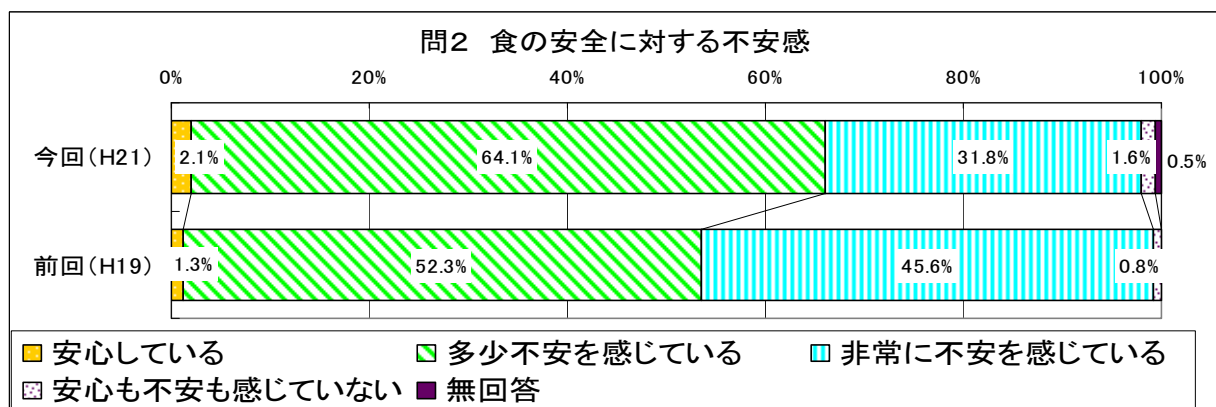
食品の偽装表示、中国産輸入野菜の残留農薬基準違反、輸入牛肉におけるBSE（牛海綿状脳症）の特定危険部位の混入など食の安全を揺るがす事件が頻発したことを受け、食品の安全性の確保に向けて、国、地方公共団体及び食品関連事業者が様々な取組を行っていますが、現在、あなたは食の安全についてどのように感じていますか。（1つ選択）

結果の概要

96%の人が食に対して何らかの不安を感じている

食の安全に対して「多少不安を感じている」と回答した人が64.1%を占めています。さらに、「非常に不安を感じている」と回答した人が31.8%となっており、これらをあわせると食の安全に対して何らかの不安を感じている人は全体の95.9%にもなります。

しかし、前回の調査と比較すると「非常に不安を感じている」と回答した人は45.6%から31.8%へと13.8ポイント減少していることから、食の安全に対する不安感はやや解消されているものと思われます。



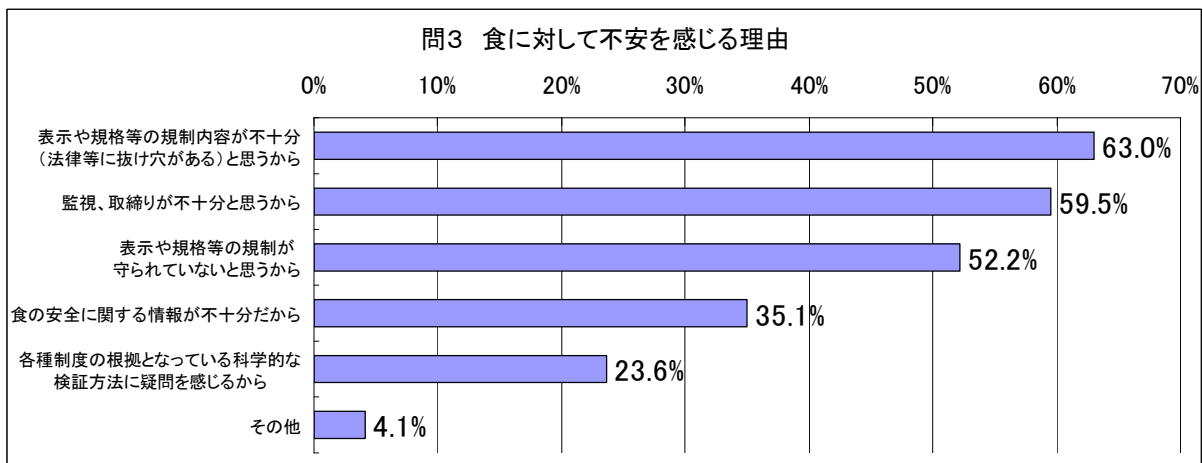
問3 食に対して不安を感じる理由について

問2で「多少不安を感じている」又は「非常に不安を感じている」を選択した方にお伺いします。あなたが食に対して不安を感じている理由は何ですか。（いくつでも選択可）

結果の概要

食に対して不安を感じる理由の第一位は、「規制内容が不十分（法律等に抜け穴がある）」と思うから」

食に対して不安を感じる理由は、「表示や規格等の規制内容が不十分（法律等に抜け穴がある）」と回答した人が63.0%、「監視、取締りが不十分」と回答した人が59.5%と、不安である理由の上位2つが、食に関する規制制度そのものや事業者指導のあり方といった行政側の対応等に関するものとなっています。次いで食品関連事業者側に対する不安要素として「表示や規格等の規制が守られていない」と回答した人が52.2%となりました。



問4 安全性に最も不安を感じる品目について

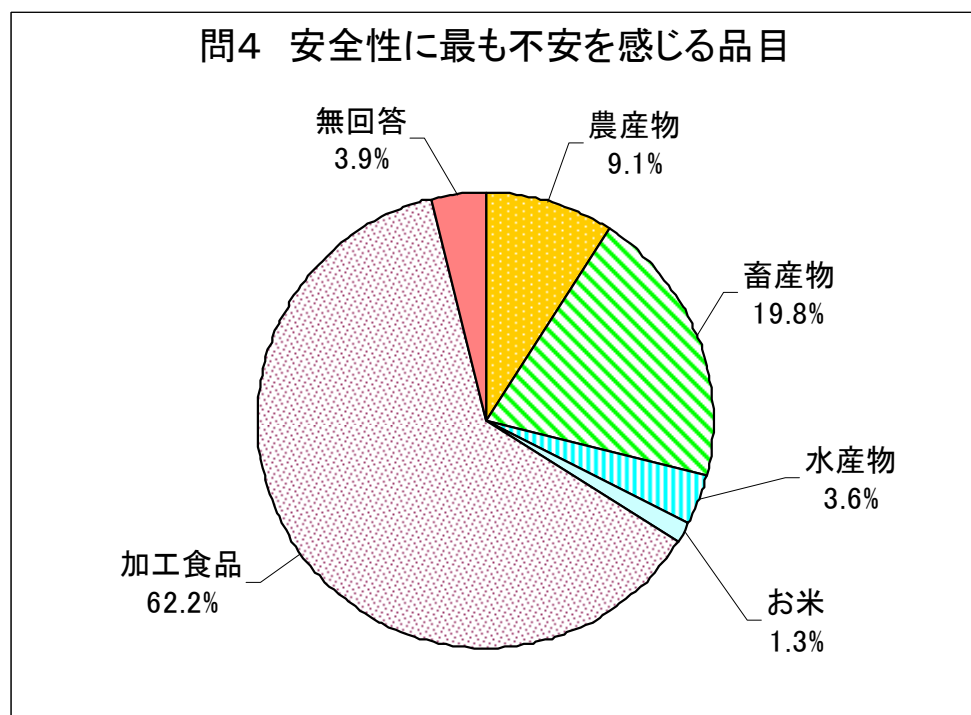
次の食品の中で、あなたが最も安全性に不安を感じる品目はどれですか。(1つ選択)

結果の概要

安全性に最も不安を感じている品目は「加工食品」

最も安全性に不安を感じる品目として「加工食品」を選択した人の割合は62.2%と他の生鮮食品の品目と比べ高くなっています。

生鮮食品のうち、最も不安を感じる品目として選択する人の割合が多かったのは「畜産物」で19.8%でした。次いで「農産物」が9.1%、「水産物」が3.6%となりました。「お米」を選択した人は1.3%でした。



問5 要因別の不安の程度について

以下の8つの要因のそれぞれについて、食の安全性の観点から、不安の程度はどのくらいですか。（1つ選択）

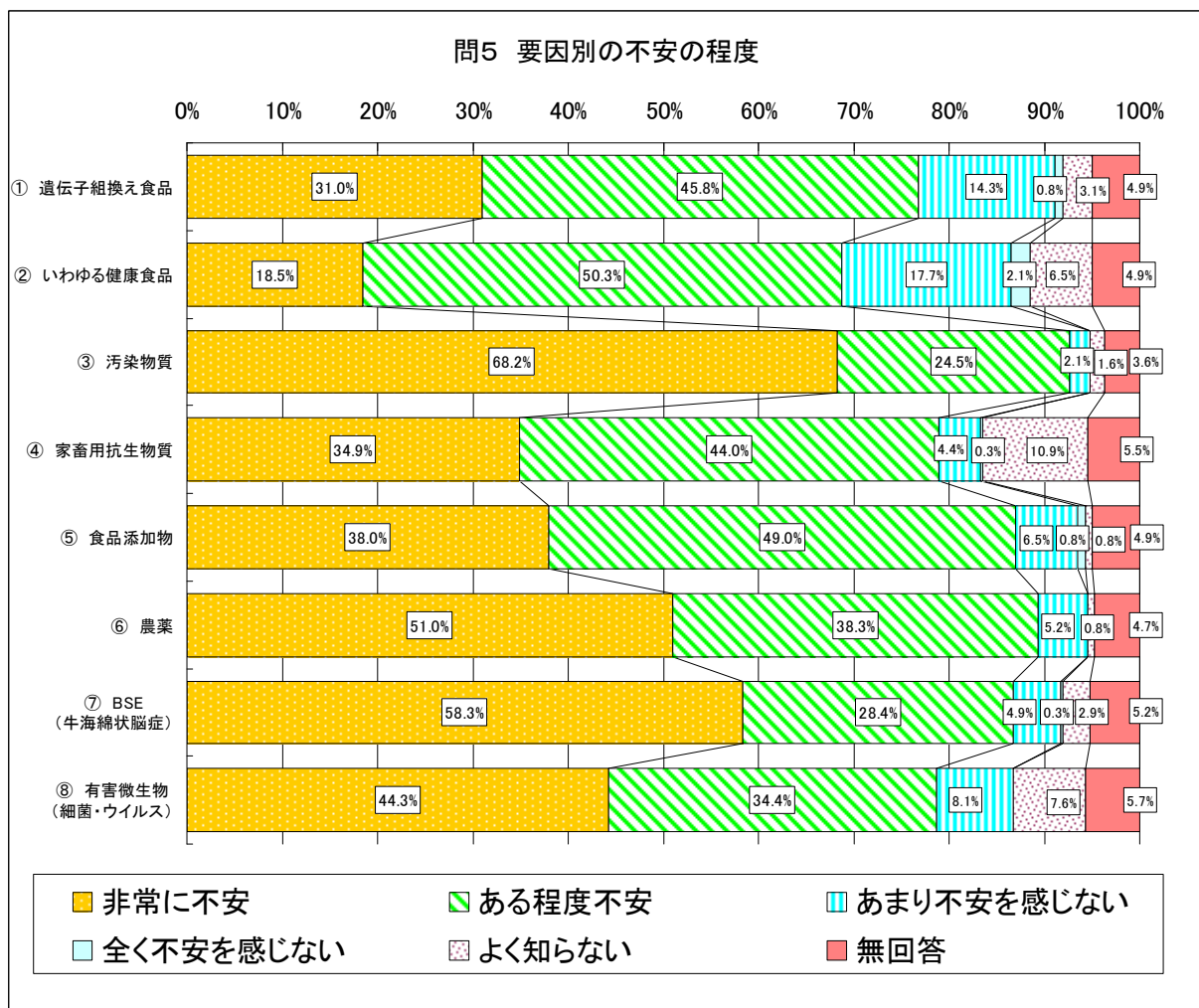
結果の概要

汚染物質^(※)、**BSE**、**農薬**に対しては、半数以上の人々が「非常に不安」と回答

※この場合の「汚染物質」とは、食物連鎖などにより食品に意図せず含まれる有害な物質（カドミウム、メチル水銀、ダイオキシンなど）を指しています。

食の安全性の観点から、「非常に不安である」と回答した人の割合が最も高くなったのは「汚染物質」で68.2%でした。「BSE（牛海綿状脳症）」58.3%、「農薬」51.0%については、5割を超える人が「非常に不安である」と回答しました。

また、「ある程度不安である」と回答した人を加えると「汚染物質(92.7%)」、「農薬(89.3%)」、「食品添加物(87.0%)」の順で不安を感じている人が多いとの結果になりました。



3 食の安全・安心に関する事件等

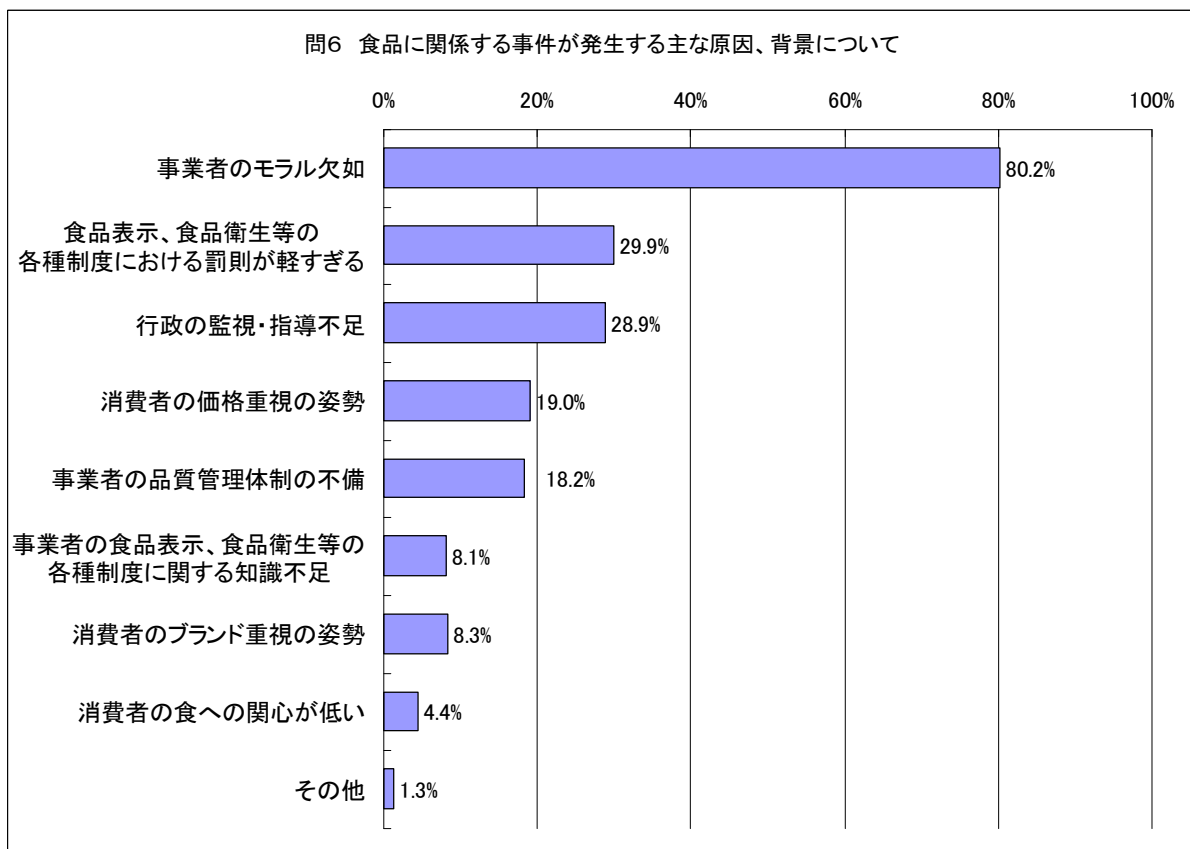
問6 食品に関する事件が発生する主な原因、背景について

産地偽装や危険な食品の流通など、食品に関する事件が発生する主な原因、背景は何だと思いますか。（2つまで選択）

結果の概要

食品に関する事故が発生する原因として8割以上の人々が「事業者のモラル欠如」を指摘

食品に関する事件が発生する主な原因、背景として、「事業者のモラル欠如」を挙げた人が8割を超え最も多くなりました。次いで、「食品表示、食品衛生等の各種制度における罰則が軽すぎる」、「行政の監視・指導不足」と回答した人は、いずれも3割程度となっています。また、「消費者の価格重視の姿勢」、「事業者の品質管理体制の不備」を選択した人の割合は、それぞれ2割程度となっています。なお、「事業者の食品表示、食品衛生等の各種制度に関する知識不足」、「消費者のブランド重視の姿勢」、「消費者の食への関心が低い」を選択した人は1割以下と比較的低くなっています。



問7 外国産の食品の安全性について

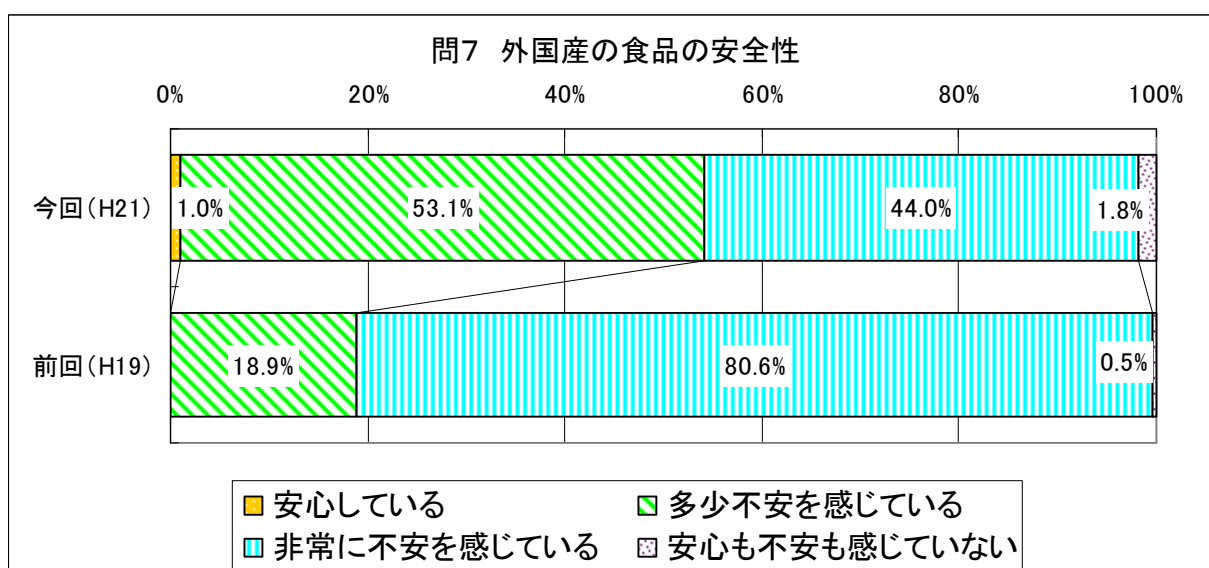
あなたは外国産の食品の安全性についてどのように感じていますか。（1つ選択）

結果の概要

ほとんどの人が外国産の食品に対して何らかの不安を感じているものの、信頼回復の兆しが見られる

外国産の食品の安全性について、「多少不安を感じている（53.1%）」と「非常に不安を感じている（44.0%）」と回答した人の割合の合計は、97.1%と極めて高くなっています。

しかし、前回の調査と比較すると「非常に不安を感じている」との回答は80.6%から36.6ポイント減少しており、外国産の食品に対する信頼には、回復の兆しが見られます。



4 食品の購入時・購入後の行動

問8 食品を購入するときに注意することについて

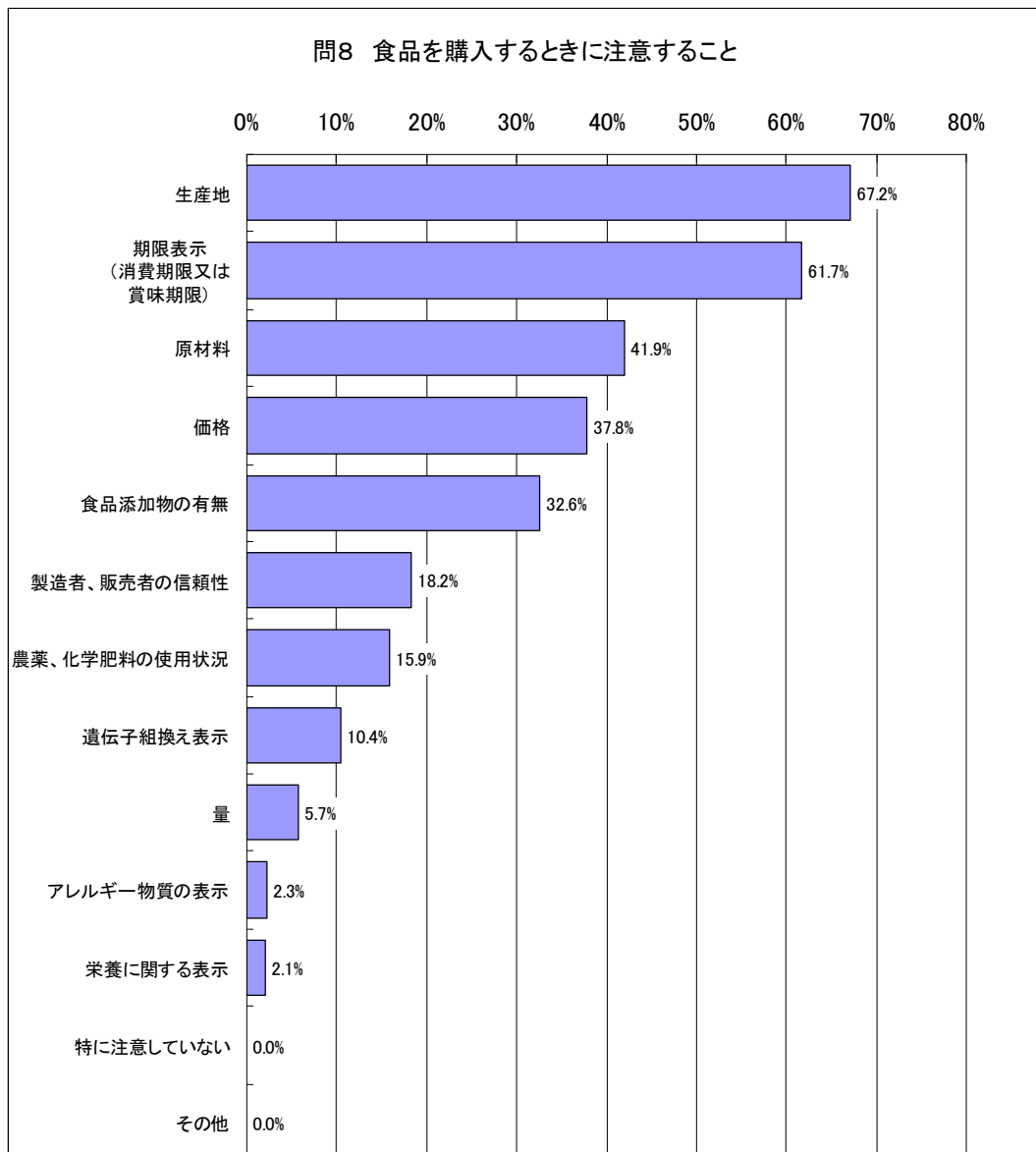
あなたは食品を購入するとき、何に注意して選んでいますか。（3つまで選択）

結果の概要

「生産地」や「期限表示（消費期限又は賞味期限）」に注意して食品を購入している人は6割以上

食品を購入するときに注意していることとして「生産地」を選択した人の割合は67.2%と最も高く、次いで「期限表示（消費期限又は賞味期限）」が61.7%となっています。

それらに次いで「原材料(41.9%)」、「価格(37.8%)」、「食品添加物の有無(32.6%)」の順で選択した人が多くなっています。



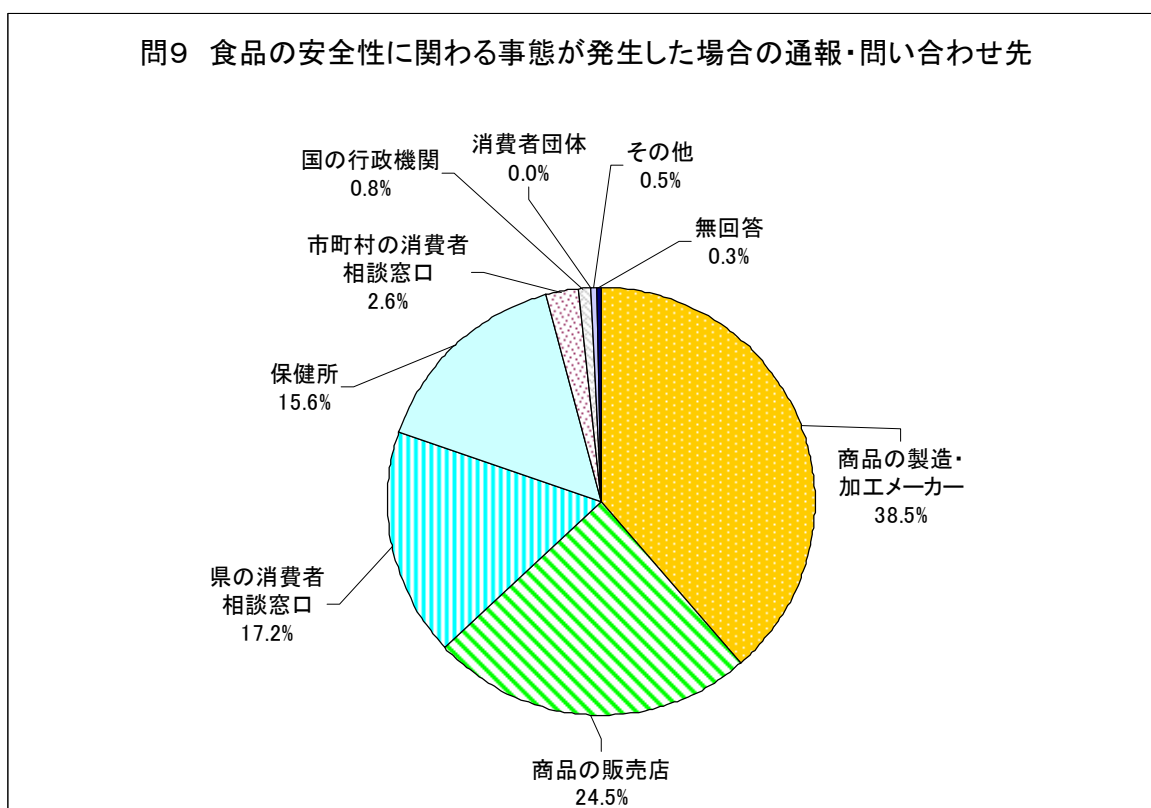
問9 食品の安全性に関わる事態が発生した場合の通報・問い合わせ先について

食品の安全性に関わる事態が発生した場合、あなたはまず、どこに通報や問い合わせを行いますか。（1つ選択）

結果の概要

食の安全性に関わる事態が発生した場合、まず「商品の製造・加工メーカー」へ通報する人が最も多い

食の安全性に関わる事態が発生した場合の通報・問い合わせ先として、「商品の製造・加工メーカー」を選択した人の割合が38.5%と最も高くなりました。次いで、「商品の販売店」が24.5%、「県の消費者相談窓口」が17.2%、「保健所」が15.6%といった順になっています。その他、「市町村の消費者相談窓口」、「国の行政機関」などを選択した人は3%未満と少数でした。



5 食の安全性の確保に向けた今後の方向性

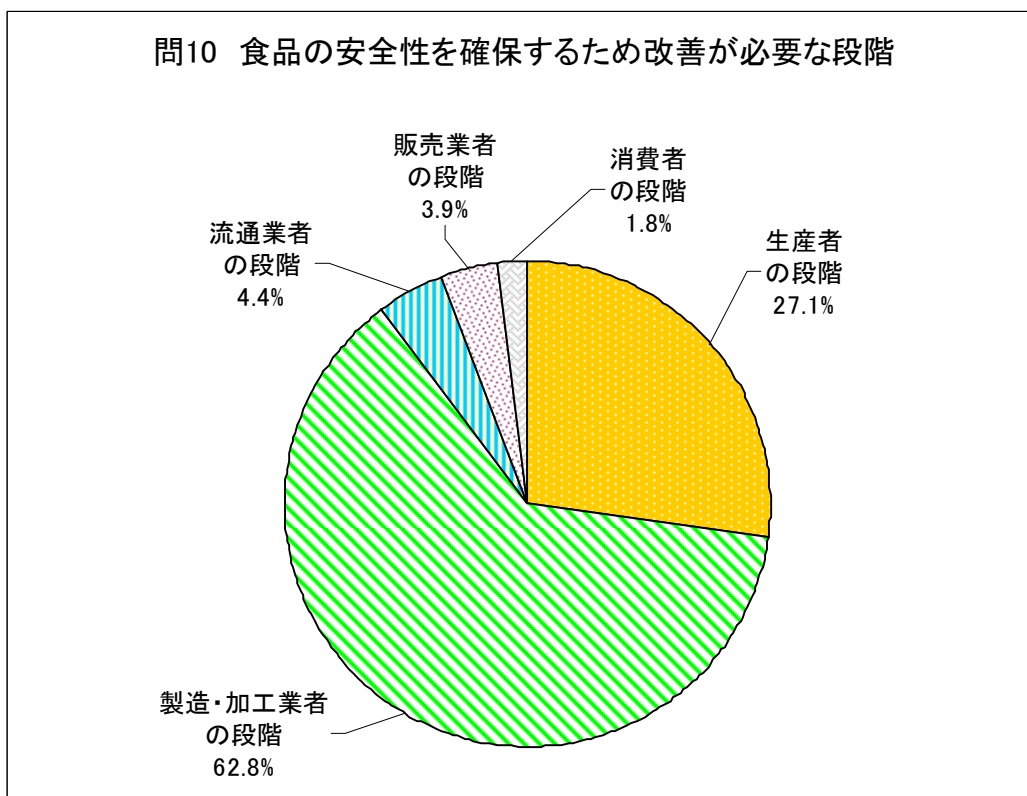
問10 食品の安全性を確保するため改善が必要な段階について

食の安全性を確保するため、食品の生産から消費までのどの段階での改善が必要だと思いますか。（1つ選択）

結果の概要

「製造・加工業者」の段階での改善が必要と考える人が約6割

食の安全性を確保するために改善が必要と思われる段階として、「製造・加工業者」を選択した人が62.8%と過半数を占める結果となりました。次いで「生産者の段階（農業者や漁業者）」を選択した人が27.1%と多くなりました。一方、「流通業者（市場、卸売業者、運送業者など）」、「販売業者（スーパー、小売店など）」、「消費者」の段階を選択した人の割合は5%以下と低くなっています。



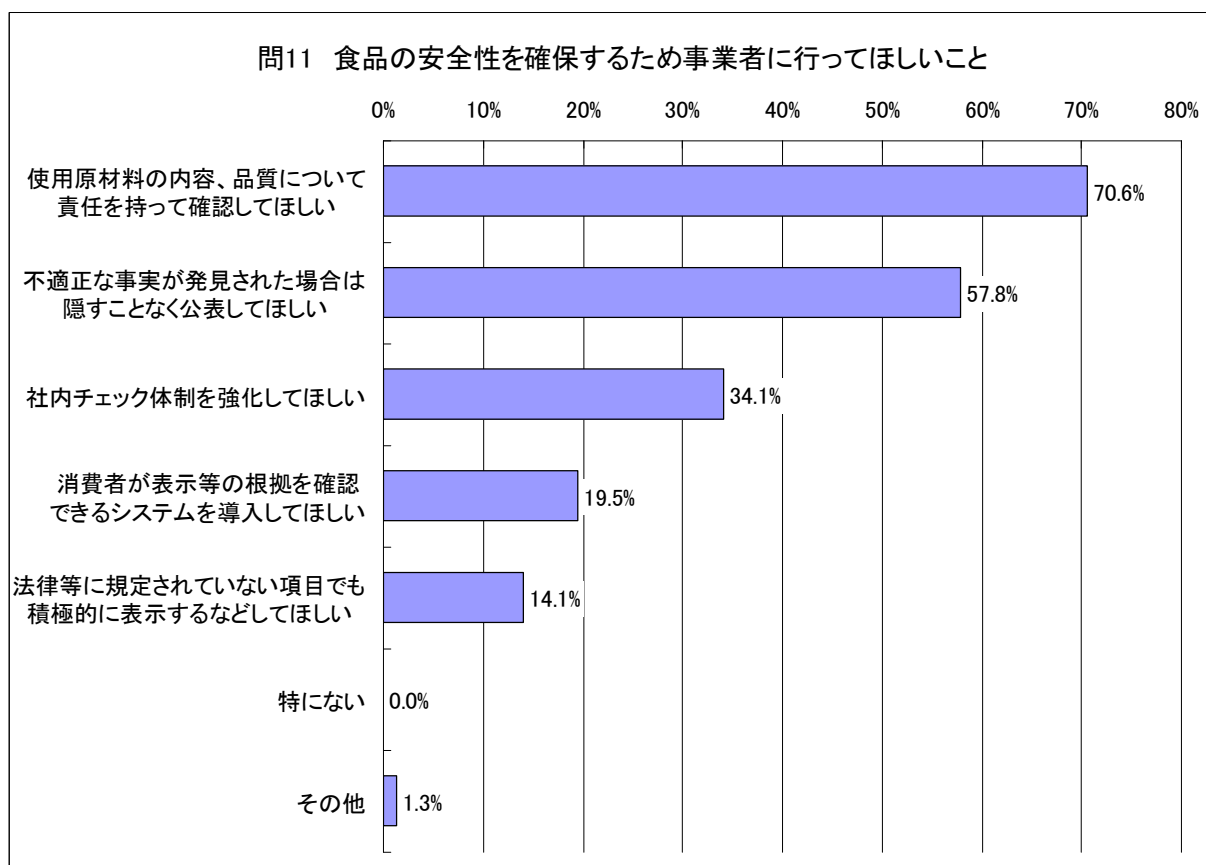
問11 食品の安全性を確保するため事業者に行ってほしいことについて

食品の安全性を確保するため事業者に行ってほしいことは何ですか。（2つまで選択）

結果の概要

事業者には、使用する原材料の内容や品質について、責任を持って確認してほしいと望んでいる

食品の安全性を確保するため事業者に行ってほしいこととして、「使用する原材料については、その内容や品質について責任を持って確認してほしい」を選択した人の割合が70.6%、「不適正な事実が発見された場合は、隠すことなく公表してほしい」が57.8%といずれも過半数を上回りました。次いで、「社内のチェック体制を強化してほしい」34.1%、「消費者が表示等の根拠を確認できるようなシステムを導入してほしい」19.5%、「消費者ニーズに対応するため、法律等に規定されていない項目でも積極的に表示するなどしてほしい」14.1%の順になっています。



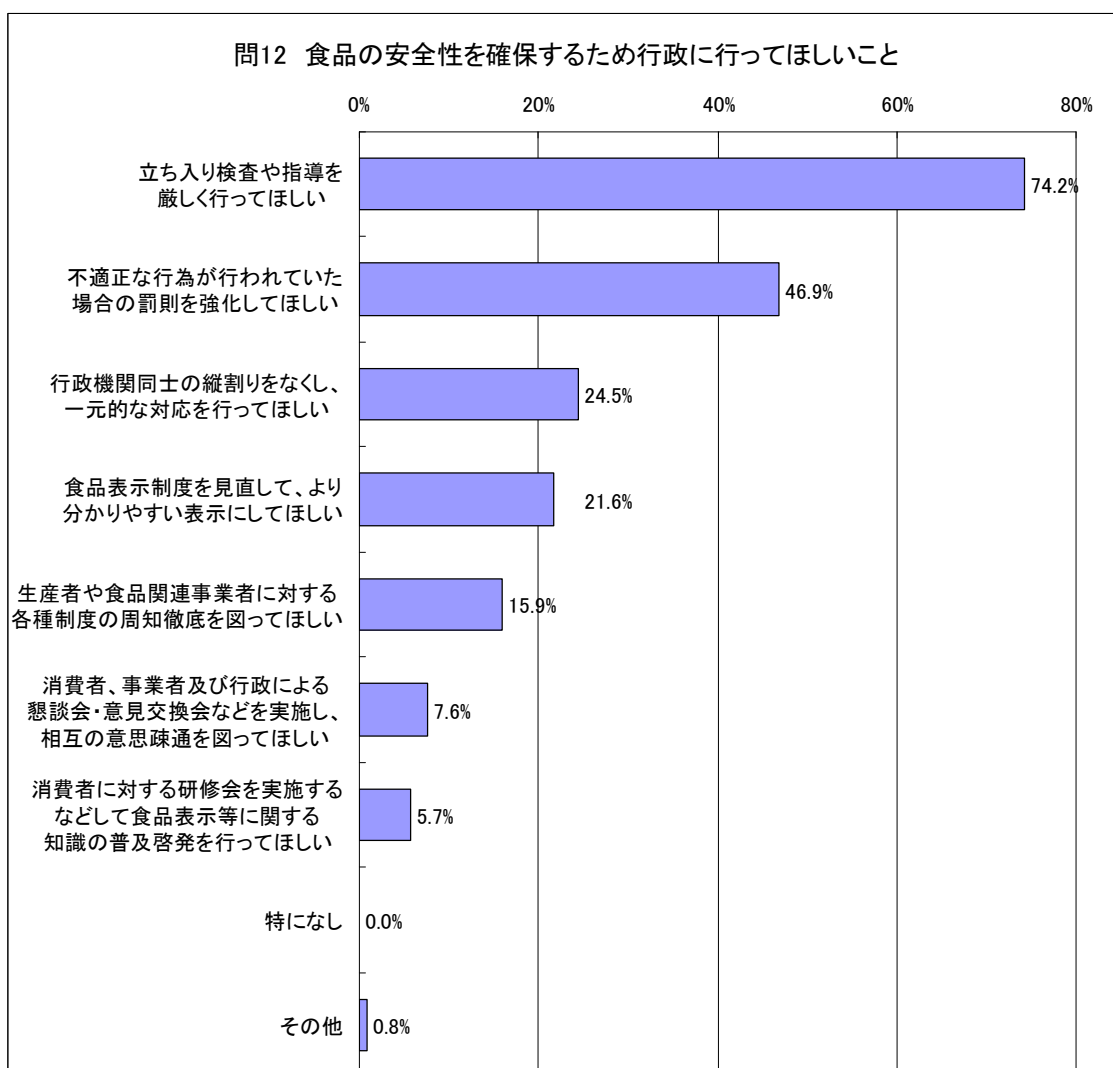
問12 食品の安全性を確保するため行政に行ってほしいことについて

食品の安全性を確保するため行政（国や地方公共団体）に行ってほしいことは何ですか。
（2つまで選択）

結果の概要

事業者への厳しい監視指導や罰則の強化を望んでいる

食品の安全性を確保するため国や地方公共団体などの行政に行ってほしいこととして、「表示等の内容が適正かどうかの立入検査や指導を厳しく行ってほしい」を選択した人の割合が74.2%と最も高くなりました。次いで、「不適正な行為が行われていた場合の罰則を強化してほしい」が46.9%となっています。また、「行政機関同士の縦割りをなくし、一元的な対応を行ってほしい」、「現在の食品表示制度を見直して、より分かりやすい表示にしてほしい」を選択した人もそれぞれ2割を超えています。



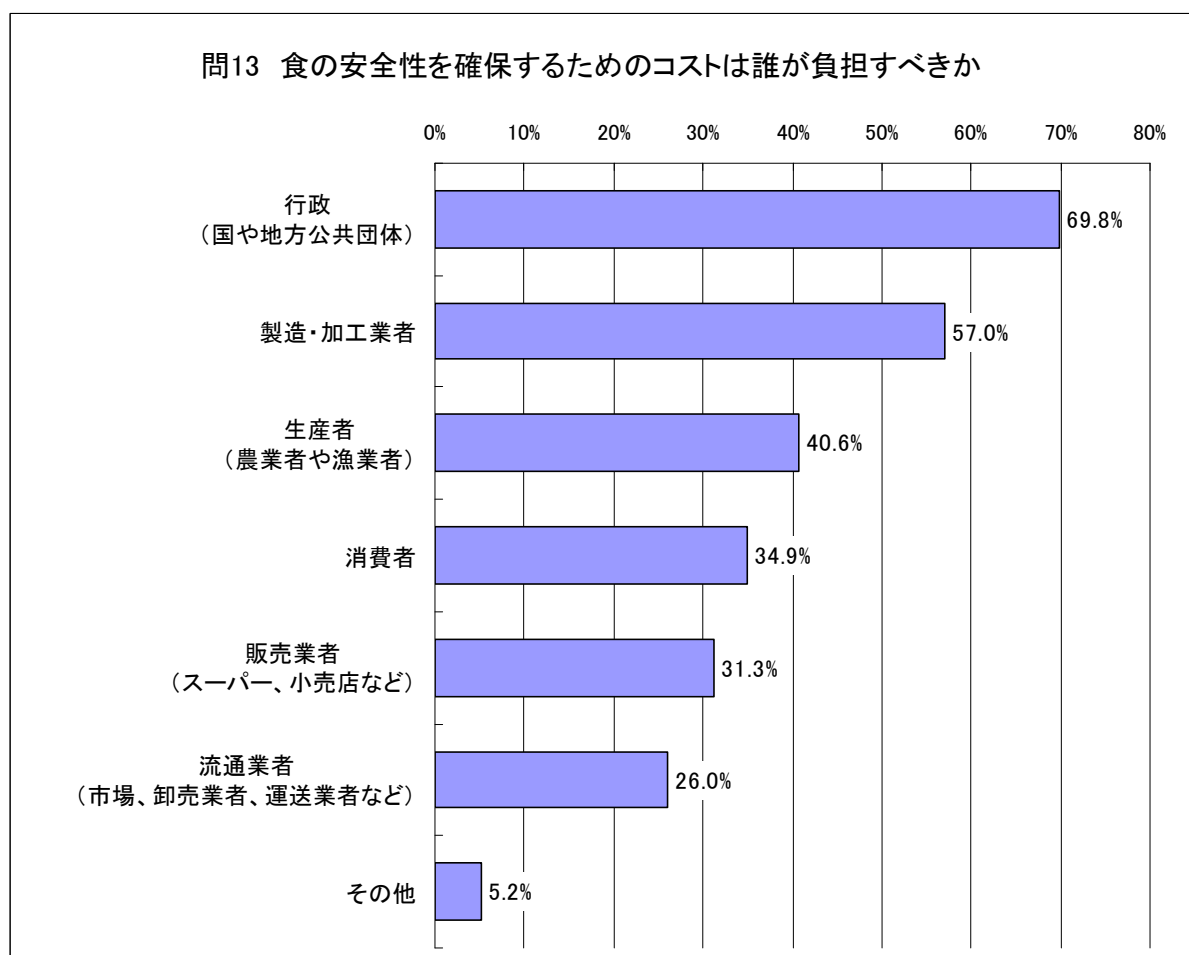
問13 食の安全性を確保するためのコスト負担について

食の安全性を確保するために新たなコストが必要となった場合、そのコストは誰が負担すべきだと思いますか。（いくつでも選択可）

結果の概要

食の安全性を確保するためのコストは、「行政」、「製造・加工業者」が負担すべきと考える人が多い

食の安全性を確保するために新たなコストが必要となった場合、誰が負担すべきかとの問いに対して、「行政（国や地方公共団体）」を選択した人の割合が69.8%、「製造・加工業者」が57.0%と高くなっています。次いで「生産者（農業者や漁業者）」が40.6%であり、「消費者」を選択した人は34.9%でした。「販売業者（スーパー、小売店など）」と「流通業者（市場、卸売業者、運送業者）」を選択した人は、それぞれ31.3%と26.0%となっています。



6 食の安全・安心に関する意見等（自由意見）

食の安全・安心に関する意見・要望等について尋ねたところ、多数の回答がありました。以下にその一部を紹介します。

（１）食に対する不安について

食品の安全性は、消費者では分からないので、表示を信じるしかありません。（40代女性）
食品の偽装表示などが相次ぎ、何をどこまで信用してよいか心配になります。（40代女性）
「食の安全」について常に不安を感じています。しかし、考えると食べられる食品が非常に限られてしまうため、普段は気にしすぎないようにしています。（40代女性）
最近、例えば弁当等、あまりに低価格な商品が見られ、材料はどのようなものかと不安に感じるときがあります。とにかく、国産を選んで購入しています。（60代女性）
主に国産の食品を買うようにしています。しかし、偽装が行われれば、中国産等を購入していることもあるかもしれません。加工食品等も含め、どこのものでも安心して、安全だと確信して購入できるようになればありがたいです。（30代女性）
食品添加物が怖いので、できるだけ加工食品は買わないようにしています。安全をうたっている自然食品会社の製品は高いし、安くて安全な食品は無理なのでしょうか。（40代女性）
食の安全・安心を消費者が確信することはとても難しいと思います。表示内容を信頼して選ぶしかないのですが、表示内容に嘘があったとしたら消費者は気付かないと思います。（30代女性）

（２）行政への要望について

景気が悪くなればやはり不正は増え、良くなれば減少します。それをふまえて景気の悪いときには、立ち入り検査の回数を増やすなどの対応をすべきだと思います。（30代女性）
これだけいろいろ食品偽装が騒がれても、またほとぼりがさめると不正をするところが出てくるのは、社会的制裁が弱いからかと思うのですが、罪を重くすれば件数は少なくなるかということ、そうでもないのがつらいところですね。（40代女性）
問題があったときに、誰か一人を指導しても解決になりません。意識啓発が常に必要とされる指導力が必要だと思います。（70代女性）
食の安全への関心は、以前より高くなっている傾向にも関わらず、いまだに偽装事件が起きています。偽装が明るみになるきっかけの1つである内部告発を、行政がきちんと処理し、適切な判断をしてもらいたいです。（30代女性）

<p>食品に係る事件・事故を防止するためには</p> <p>① 事業者・食品現場責任者の指導、教育</p> <p>② 罰則の強化（事業の廃止、取消処分）</p> <p>③ 縦割りの弊害の解消（保健所と食品消費生活相談窓口の連携）</p> <p>④ 内部告発制度の充実（なお、告発者の地位保全も同時に進行させる）</p> <p>⑤ 行政の取組方針を性善説から性悪説へ転換</p> <p>以上5点を強調したいです。（70代男性）</p>
<p>賞味期限、消費期限の設定について、過度な安全志向による膨大な無駄を排除すべきです。そのためには、事業者には責任を押しつけている行政が、科学的基準を示すべきだと思います。（60代男性）</p>
<p>事故米、輸入冷凍食品（ギョーザ）による薬物中毒、産地偽造など、食の安全・安心を揺るがす事件があると、その時のみメディアも騒ぎますが、立入検査後の結果、行政の指導や罰則などについて消費者にも伝わるような方法はないのでしょうか。（40代女性）</p>
<p>行政の窓口が把握できません。機能、所在地等の情宣不足。特に「保健所の果たす役割」は何か、今一度、住民の立場から考えてみたいと思います。（60代男性）</p>
<p>食品添加物の名称が表示してあっても、どんなものか分かりません。もう少しどんな物なのかを周知してほしい。（20代女性）</p>

（3）食品関連事業者への要望について

<p>事業者のモラル向上に期待したいと思います。（40代女性）</p>
<p>食の安全・安心は命に関わることで、非常に重要なことです。それが事業者（生産者を含め、製造、加工、流通販売）の責任について、極めていい加減な受け止め方をされているようで、腹立たしさを覚えます。（60代男性）</p>
<p>企業が正直で思いやりのある行動さえ取ってくれば問題ないのですが、一部の企業における正義感に欠ける行動がとても残念に思います。（60代女性）</p>
<p>各事業者は消費者を喜ばせる商品を提供する努力をしていただけたらと思います。（50代女性）</p>
<p>低コスト競争のみに走らないで、安全性にはある程度コストをかけて提供すべきです。（60代男性）</p>
<p>事業者の倫理が問われる時代です。食の安全について不安、疑いがある場合、一番早く気づくのは、現場の人々だと思います。内部告発しても、働く人々が困らない体制づくりを望みます。（60代女性）</p>
<p>より安心、安全な食物が、手軽に安価で購入できるようになるといいなと思います。（40代女性）</p>

(4) 食の安全・安心に対する消費者のあり方について

「正確な知識を持つこと」が私たち消費者に必要なことだと思います。消費者が賢くならなければいけません。(30代女性)
安価な物ほどからくりがあるのではと思います。安い物に飛びつく消費者の考えを変えていかないと、食の安全は守られないと感じています。(50代女性)
消費者側が生産者、メーカーへの無理な要求を考え直すときです。安価な物ばかりを求めているのは、良いサービスや商品の提供は実現できるはずがなく、零細、中小の業者を追い込むだけです。(40代女性)
生産者の利益を守るために消費者がある程度負担し高い食品を買うのは当然です。自給率も悪い国なので安い食料品を望むならリスクもあって当たり前です。食品の価値を高める意識改革も必要です。(30代女性)
安全・安心のためには、自分で材料から調理するのが一番だと思います。バランスの良い比較的安価な食生活ができると思います。(60代女性)
食に対する人々の意識は、以前と違ってきているように思いますが、その意識が購買行動に表れている人はまだまだ少ないと思います。良くないと分かっても経済的に余裕がなければ安い物を買わざるを得ません。(20代女性)

(5) その他

食の安全を確保するためには、どこか特定の段階だけが負うものでは担保されないと思います。各段階で公平に費用負担することにより、確立されるのではないかとします。(40代男性)
食の安全性を確保するための新しいコストは行政が負担すべきだと思います。ほかに誰がするのですか？行政の人々以外は一般市民であるということを忘れないでください。(40代女性)
食の安全・安心をと思いながらも、この不景気の中、家計のことを考えると価格の安い外国産などを選ぶ事もあります。(40代女性)
新聞やテレビ等にもっと食の安全・安心等の情報を多く出してほしい。(60代女性)
消費者は、価格のみの追求になりがちになりやすいので、より消費者自身が食の安全等について講習会だけでなく、新聞・雑誌などでも学べる機会が増えるといいと思います。(30代女性)

食の安全・安心に関するアンケート調査報告

平成22年1月発行

愛知県県民生活部県民生活課

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-954-6163 (ダイヤルイン)